

橋梁に関する意識調査と分析

信州大学	日高 弘次
信州大学	学生会員 岸 圭太
(株) 藤森建設工業	正会員 山本 太郎
信州大学	正会員 清水 茂

1.はじめに

現在、橋梁に関する景観設計のほとんどは、設計者や一部の有識者など限られた専門家によって行われており、一般の人々の意見が反映される場合は少ない。しかし、橋梁景観に対する評価は、橋梁などに詳しい建設関係者と一般の人々では意識が異なるという指摘がなされている¹⁾²⁾。そこで、橋梁に関する景観設計を行う際、一般の人々の橋梁に対する考えや思いを知ることは、より良い橋梁を創造していく上で重要だと考えられる。

著者らは一般の人々の「印象に残る橋梁」を知り、分析することによって景観設計の際の考慮すべき点、あるいは重視すべき点を探ることが出来るのではないかという考えより、被調査者を長野市内の人々に限定し橋梁に関するアンケート調査を行った³⁾⁴⁾。この調査では地域を限定したため、この地域ならではの傾向が見られた。次に、母集団を拡大するために WWW 空間でのアンケート調査を実施した⁵⁾。この調査方法では、母集団は拡大するが、被調査者は我々のホームページにアクセスする人々に限られてしまう。しかし、地域の限定はなくなり、より多くの情報を得ることが出来た。

そこで本研究では、WWW 空間で集められた情報を用い、一般の人々の「印象に残る橋梁」を分析し、そのイメージを明らかにする事を目的とする。

2.分析手法

集められた情報を以下の手法で分析する。

- ①被調査者が「印象に残る橋梁」として思い浮かべた橋梁の利用回数などの情報をもとに、「印象に残る橋梁」の傾向を明らかにする。
- ②対比する言葉を一組とした「暖かい⇔冷たい」「硬い⇔柔らかい」「不格好⇔美しい」「嫌い⇔好き」「周囲から目立つ⇔周囲にとけ込む」の5項目について多変量解析を行い「印象に残る橋梁」のイメージを探る。

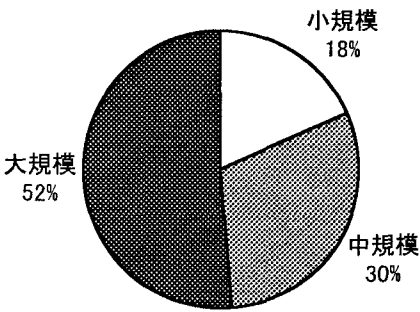


図-1 橋梁の規模

3.分析結果

本稿では紙面の都合上、①の結果の一部を報告する。

3.1 橋梁の規模と利用回数の関係

被調査者が思い浮かべた橋梁に対して、被調査者自身が感じた規模と、利用したことのある回数の関係より「印象に残る橋梁」の傾向を明らかにする。

図-1 は思い浮かべた橋梁の規模を示す。「大規模」の回答が 52%、「中規模」が 30%を占める。「印象に残る橋梁」はある程度の大きさでとらえられていることがわかる。

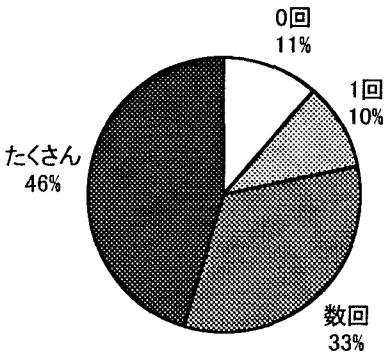


図-2 橋梁の利用回数

図-2は、被調査者が思い浮かべた橋梁を利用したことがある回数である。「たくさん」「数回」でほとんどを占め、「1回」「0回」の回答は少ないことから、過去に何度か利用したことのある橋梁を挙げる回答が多いことがわかる。

次に、図-1と図-2より、橋梁の規模と利用回数との関係をクロス集計したものを図-3に示す。小規模と中規模では利用回数が多くなるほど回答数が増えており、回答数が利用回数に比例することがわかる。

しかし、大規模においては「数回」の回答数が「たくさん」の回答数を上回るなど、利用回数と回答数は比例しておらず、小規模と中規模の場合とは異なった傾向が見られる。

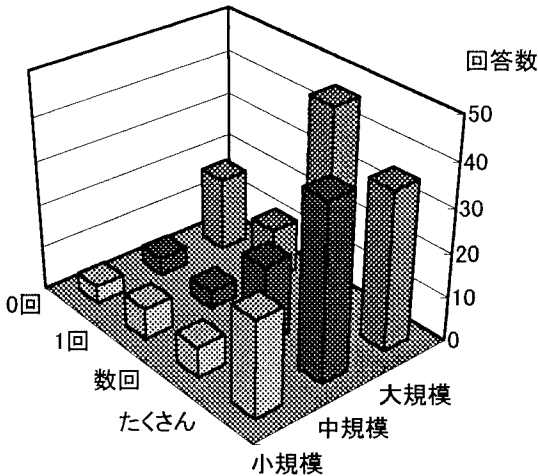


図-3 規模と利用回数の関係

3.2 思い浮かべた理由

「印象に残る橋梁」に思い浮かべた理由を分析する。

図-4は「印象に残る橋梁」に思い浮かべた理由を橋梁の規模ごとに分析し、多かった意見を示したものである。大規模、中規模ともに最も多かった理由は「身近だから」であるが、大規模では「毎日見ているから身近」であって、中規模の「毎日利用するから身近」である場合とは異なる。その他の理由を見てみても、大規模では外見についての理由が多いのに対し、中規模では実際に利用していることによる理由が多い。また、小規模では「思い出がある」や「生まれたときから利用している」などの理由が多い事がわかる。

大規模	身近(家や会社から毎日見ている) 大きさが印象に残っている 構造形式(吊橋、斜張橋)が印象的 ライトアップが印象的
中規模	身近(毎日利用する) 構造形式(アーチ橋、吊橋) 橋からの景色が印象的
小規模	思い出がある 石橋、木橋など材質的な特徴 生まれたときから利用している

図-4 規模別の印象に残る橋梁に挙げた主な理由

4. まとめ

被調査者自身が大規模と感じる橋梁では、印象に残る理由として外見を述べる意見が多く、利用回数の多さが印象に関わることは少ないといえる。一方、中規模と小規模では利用体験からの理由が多く、利用回数の多さが印象に大きく関わっていると分析できる。

また、大規模と中規模では構造形式など橋梁全体の印象を述べているのに対し、小規模では材質などの橋梁の一部の印象を述べている意見が多い。

本稿では、規模と利用回数の観点から「印象に残る橋梁」の傾向を明らかにした。本稿執筆以降の分析結果も含め、その他の詳細は当日発表する。

参考文献

1)山田,前田他：橋梁の審美性に関する意識調査、第51回年次学術講演会概要集、IV-356,pp.712-pp.713,1996.9 2)川上,村上他：都市高架橋の形態評価に専門知識の有無が及ぼす影響、第53回年次学術講演会概要集、I-A284,pp.568-pp.569,1998.10 3)山田,清水：橋梁景観に関する意識調査、中部支部平成九年度研究発表会講演概要集、I-62,pp.121-pp.122,1998.3.6 4)山本,清水：長野市における橋梁の印象調査、構造工学論文集、Vol.46A,pp.423-pp.430,2000.3 5)山本,清水：WWWを用いた印象に残る橋梁のイメージ調査、第54回年次学術講演会概要集、I-A98,pp.196-pp.197,1999.9